2022年（令和4年）
第28号
（4月1日）

平安だより

HEIAN letter

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

今月のことば　～各自の感謝のしるし-持戒～　洛叡支部　山口りえこ

今月は洛叡支部の山口が担当させて頂きます。

縁あって結婚して５３年を迎えます。お陰様で神社などの御守りパッケージ商品などの商売をさせて頂いて４０年近く続けさせて頂いています。娘３人も嫁ぎ、それなりに家庭を待ち、暮らさせて頂いております。主人は８０歳になりました。お陰様で長年元気で趣味に仕事に頑張ってきました。

ところが、昨年の１月脳梗塞で倒れ救急車で運ばれました。初めての入院です。私も長年主任のお役をさせて頂き、年齢とともに体力的にしんどくなってご法に情熱が薄らいでいるときでした。

仕事は、主人が一人でしていましたので、主人が入院したとたん、仕事のことは私にはわからないことばかりでした。若い時から仕事をたまに手伝いに来てくれていた娘達がすぐに駆けつけてくれました。テキパキと仕事をしてくれたり、主人の足が不自由になったからと車の処分もし、ベットを置くことになるから、家の不用品も大型ゴミに出したりと、何回も自分たちの家のことを後回しにしてまで、通ってきて協力して片づけてくれました。本当に有難いと感謝しました。

主人もリハビリが始まり頑張りました。足の不自由が少し残っただけでしたので、お陰様で仕事はさせて頂け有難いことでした。この時の私に出来る事は祈願供養しかありませんでした。三部経を寒修行に平日には読誦修行に力が入りました。支部の皆さんやサンガの皆様にも祈願して頂き、有難い気持ちでいっぱいでした。

今月の会長先生のご法話は「各自の感謝のしるし―持戒」です。「私たちは生まれた時からあらゆるものごとの「おかげさま」によって生かされています。ところが日常のことに感謝して過ごしているかというとそうではない。すべてのものごとに感謝しそれゆえ、みなが楽しく幸せに生きられるよう努める」とありました。「せめて自分が今いる場所で周囲に安らぎを与えることです。」と拝読させて頂きました。

今まで玄関まで見送りなどしたことのない私です。主人は元気が当り前と思ってきましたが命が危ぶまれた時、一緒にいられることがどんなに有難いことかと気づかせて頂きました。これからは生かされた命を大切に感謝して笑顔で玄関まで見送っていきたいと思います。

庭野開祖のご法話　政治と宗教　～国際法による秩序～

イランの石油はほしいが、さりとて米国の機嫌を損（そこ）ねてもまずいというので、日本は板ばさみになって苦しみました。こちらを立てればあちらが立たずというケースは、狭（せま）くなった地球上では、これからも頻繁（ひんぱん）に起こると思われます。

昨年(1979 年当時)暮れ、イランの首都テヘランで米国大使館がイランの大学生によって占拠され、大使館員が人質として拘束（こうそく）されるという事件が起こりました。この米国大使館占拠事件に対して日本政府が事態に即応できずに静観したのも、現在の日本が全石油輸入量の一割をイラン石油によっていることが原因の一つだったと思われます。

しかし、世界には国際法というルールがあります。みんなが交通ルールを守り、信号どおりに行動すればこそ全体の安全と秩序が確保できるように、国際法も世界の国々がそれを守ってこそ平和が保たれます。

米国大使館の占拠は明らかにルール違反であり、国際正義にもとる行為です。このような無法行為が世界中に広まれば、世界の秩序は崩れさってしまいます。それを黙視して自国の小さな損得勘定に走るか、平和を守る国際正義に立つか、道はおのずから明らかです。

令和４年、私たちは「どこでも道場　祈り祈られ　笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。https://rkk-kyoto.jp/